

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業名	古文書解読編さん事業			会計	款	項	目	大事	小事
政策	03	3節 学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）		主管課	図書・博物館				
施策	3-4	ながれやま市民文化の継承と醸成		主管課長	小栗 信一郎				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	流山に関する古文書	意図	流山に関する資料をわかりやすいものにする。
事業内容	収集した古文書の整理・解読を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	昭和42年度に市史編さん室が古文書の解読を開始し、昭和59年度からは博物館に設置された市史編さん係が引き継ぎ、平成14年度から博物館学芸係が担当している。平成5～11年度は、一部を大学等研究機関に委託して解読を実施した。平成21年度からは、恩田家文書の解読を行っている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		①	古文書総点数	27,357	27,552	27,552	
②	解読資料点数/年度	968	1,097	2,050	点	→→	
③	総解読資料点数	9,905	11,002	13,052	点	→→	
④							
⑤							
⑥							

指標で表すことができない定性的な成果	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）		
事務事業のコスト	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事務事業の総コスト(a=b+c)			
事業費(b)(円)			
うち一般財源			
職員給与費(c)(円)			
人役・職員(人)			
人役・再任用(人)			
人役・臨職(人)			
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			

恩田家文書解読 総数9,125点
 ・委託解読数 820点
 ・博物館解読数 6,912点 (H21～H29)
 解読済点数 7,732点 (84.0%)
 恩田家以外の文書解読が、進んでいない。

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H29)の改善計画	古文書解読数の増加。	③取組の課題	未解読資料数を減らしていく。
②今年度(H29)に実施した取組	前年より解読点数を増やすことができた。	④今後(H30以降)の改善計画	古文書解読者の増員。